



# 【Exchange Online】 メールデータ移行

2025年9月30日

# 改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2025年9月30日	初版発行

本資料の内容は 2025/9/30 時点のものです。製品のアップデートにより変更となる場合がございます旨ご了承ください。

# Agenda

1. 前提情報
  1. 用語集
2. Exchange Online のメールデータ移行
  1. Exchange Online 導入の背景
  2. メールデータ移行のポイント
3. 移行前の準備
  1. 移行前の準備概要
  2. ライセンスとテナントの確認
  3. ネットワークとセキュリティの確認
  4. ユーザーアカウントとメールボックスの整備
  5. バックアップとリスク対策
4. 移行方式の概要と選定ガイド
  1. 移行方式の概要
  2. 利用状況に応じた移行方式の選定：  
Outlook (PSTファイル) を使用している場合
  3. 利用状況に応じた移行方式の選定：  
IMAP 対応クライアントを使用している場合
  4. 利用状況に応じた移行方式の選定：  
オンプレミス Exchange Server を使用している場合
  5. 利用状況に応じた移行方式の選定：  
Microsoft 以外のメールサービスを使用している場合
5. 移行方式別の代表的なトラブルと初期対応
  1. メールデータ移行の代表的なトラブル内容
  2. PST ファイルインポート方式：メールが別のユーザーに入っている
  3. IMAP 移行方式：フォルダ構成が崩れている
  4. Exchange Server 移行方式：Outlook が接続できない



# 1. 前提情報

# 1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
1	VPN	Virtual Private Network。インターネット上で安全な通信を行うための技術。企業ネットワークへのリモートアクセスに使用される。
2	多要素認証 (MFA)	ユーザー認証時に複数の要素 (パスワード+スマホ通知など) を要求することで、セキュリティを強化する仕組み。
3	スパム・マルウェア対策	迷惑メールや悪意あるソフトウェアからシステムを保護するためのセキュリティ対策。
4	データ損失防止 (DLP)	機密情報の漏洩を防ぐために、データの送信や保存を監視・制御する仕組み。
5	GUI (Graphical User Interface)	画面上のボタンやアイコンを使って、視覚的・直感的に操作できる管理画面のこと。
6	Azure Storage	Microsoft Azureが提供するクラウドストレージサービス。ファイルやデータの保存に利用される。
7	PSTファイル	Outlookで 사용되는個人用フォルダファイル。メールや予定表などを保存する形式。
8	DNS レコード (MX、Autodiscover など)	メールの送受信や自動構成に必要なDNS設定。MXレコードはメールの受信先を指定し、AutodiscoverレコードはOutlookなどのクライアントが自動的に設定情報を取得するために使用される。

# 1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
9	Google Workspace	Googleが提供するクラウド型の業務支援ツール群。Gmail、Google Drive、Google Meetなどを含む。
10	サードパーティ製ツール	Microsoft以外の企業が提供するツールやソフトウェア。移行や管理に利用されることがある。
11	帯域幅	ネットワークが一度に転送できるデータ量。移行時の通信速度や安定性に影響する。
12	Entra ID	Microsoft 365のユーザー認証やアクセス管理を担うクラウドベースのディレクトリサービス。
13	条件付きアクセス	ユーザーの状況（場所、デバイス、リスクなど）に応じてアクセスを制御するセキュリティ機能。Entra ID で設定可能。
14	Microsoft Entra Connect	オンプレミスのActive DirectoryとEntra IDを同期するためのツール。
15	DNS	Domain Name System。ドメイン名とIPアドレスを対応させる仕組み。メール送受信にも関与する。
16	レガシー環境	旧世代のシステムやソフトウェア。Microsoft 365への移行元となることが多い。

# 1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
17	Exchange 管理センター	Exchange Onlineの設定や管理を行うためのWebベースの管理画面。
18	グローバル管理者 Exchange 管理者ロール	Microsoft 365テナント全体の管理権限を持つユーザー。すべてのサービスにアクセス可能。 Exchange Onlineに関する設定・管理を行うための管理者権限。
19	UPN (User Principal Name)	ユーザーの一意的ログイン名。通常は「ユーザー名@ドメイン名」の形式。
20	ファイアウォール	ネットワークの出入り口で通信を制御し、不正アクセスを防ぐセキュリティ機器。
21	プロキシ	通信を中継するサーバ。企業ネットワークではアクセス制御やログ取得に利用される。
22	PowerShell	Windows環境での管理作業を自動化するためのコマンドラインシェルとスクリプト言語。
23	SMTP アドレス	メール送受信に使用されるアドレス。Exchange Onlineではユーザーのメール識別に使用される。
24	API	アプリケーション同士が連携するためのインターフェース。移行ツールや自動化に利用される。

## 1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
25	Microsoft 365 Import Service	Microsoftが提供するメールデータ移行サービス。PSTファイルなどをクラウドに取り込む。
26	Microsoft 365 管理センター	Microsoft 365全体の設定・管理を行うWebベースの管理ポータル。
27	SAS URL	Azure Storageへの限定的なアクセスを許可する署名付きURL。Import Serviceなどで使用される。
28	IMAP	メールを取得するためのプロトコル。POPと異なり、取得したメールはサーバに保存されるため、複数の端末から同じメールを確認できる。 POP：メールを取得するためのプロトコル。取得したメールは端末に保存され、通常はサーバから削除されるため、1台の端末で利用する場合に適している。
29	CSVファイル	カンマ区切りのテキストファイル。ユーザー情報や移行設定の一括登録に使用される。
30	Active Directory	Windows環境でユーザーやコンピュータを管理するディレクトリサービス。オンプレミス環境で利用される。
31	Hybrid Configuration Wizard	オンプレミスExchangeとExchange Onlineを連携させるための構成ウィザード。

# 1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
32	アプリパスワード	2段階認証を有効にしているアカウントで、外部アプリケーション（IMAPクライアントなど）が発行する、アクセスするために必要な一時的なパスワード。通常のログインパスワードとは異なり、アプリごとに個別に生成される。Microsoft 365 や Gmail などの移行時に、IMAP接続を行う際に必要となる場合がある。
33	OAuth 2.0	外部アプリケーションがユーザーの認証情報を直接扱うことなく、安全にアクセス権を取得できる認証方式。Microsoft 365 や Exchange Online では、IMAP・POP・SMTPなどの接続において基本認証（ユーザー名+パスワード）が廃止され、代わりに OAuth 2.0 による認証が推奨されている。
34	SSO（シングルサインオン）	一度の認証で複数のクラウド/オンプレサービスへ連続的にアクセス可能にする仕組み。



## 2. Exchange Online のメールデータ移行

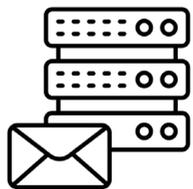
## 2.1. Exchange Online 導入の背景

Exchange Online は、Microsoft が提供するクラウド型のメールサービスです。

これまで多くの企業ではオンプレミス型のメールサーバが利用されてきましたが、サーバの運用管理負荷の増大、リモートワークの普及、セキュリティ対策の複雑化などを背景に、近年はクラウドへの移行が進んでいます。

Exchange Online を導入する背景には、以下のような課題や目的があります。

### Exchange Online の導入背景



#### オンプレミスメールサーバの 老朽化・保守負担

長年運用してきたメールサーバは、ハードウェアの老朽化やソフトウェアのサポート終了により、更新や保守の負担が増加します。障害対応やセキュリティパッチの適用も手作業で行う必要があり、管理のリソースを圧迫する要因になります。



#### リモートワークの普及

働き方の多様化により、社外から安全にメールへアクセスできる環境が求められています。Exchange Online は Web メール（Outlook on the Web）やスマートフォンアプリに対応しており、VPN 不要で柔軟な働き方を支援します。



#### セキュリティ・コンプライアンス 対応の強化

情報漏洩や標的型攻撃への対策が重要視される中、Exchange Online は多要素認証（MFA）、スパム・マルウェア対策、データ損失防止（DLP）などのセキュリティ機能を標準で提供しており、企業のコンプライアンス対応を支援します。



#### Microsoft 365 全体の 導入に伴う統合

Teams、SharePoint、OneDrive などの Microsoft 365 サービスを導入する企業が増える中、メール環境も Exchange Online に統合することで、ユーザー管理や情報共有が一元化され業務効率が向上します。

## 2.2. メールデータ移行のポイント

Exchange Online の導入にあたり、既存のメールデータ（過去のやり取り、添付ファイル、予定表など）を移行することが可能です。特に業務上重要な情報を含むメールデータは、ユーザーの利便性や業務継続性を保つために移行対象となるケースが多く、適切な移行方式を選定して安全にデータを移行することが重要です。以下に、メールデータ移行作業を行う時のポイントを記載します。

### メールデータ移行のポイント

#### ■ 業務継続性とユーザーの利便性維持

移行対象となるメールには、過去のやり取り・添付ファイル・予定表・連絡先など、業務に必要な情報が含まれています。これらを正確に移行し、ユーザーが移行後も違和感なく業務を継続できるようにすることが重要です。

特にフォルダ構成や既読・未読状態などの細かな要素は、移行方式によって保持できる範囲が異なるため、事前の確認が必要です。

#### ■ 環境に応じた移行方式の選定

メールの利用環境は組織によって異なり、Outlook のローカルデータ（PSTファイル）を使っている場合もあれば、オンプレミスの Exchange Server や Google Workspace などのクラウドサービスを利用している場合もあります。

移行方式はそれぞれの利用環境に適したものを選定する必要があり、方式の違いによって準備や作業内容が変わります。

#### ■ セキュリティと整合性の確保

移行中のデータは一時的に外部に保存されたり、複数の経路を経由したりする場合があります。そのため、情報漏洩・改ざん・重複・欠損などのリスクを最小限に抑えるための対策が不可欠です。

Microsoft が提供する公式ツールや、信頼性の高いサードパーティ製ツールを活用し、ログの取得や検証作業を実施しながら移行作業を進めることで、移行前後のデータ整合性を確実に担保することが求められます。



### 3. 移行前の準備

## 3.1. 移行前の準備概要

Exchange Online へのメールデータ移行を安全に進めるためには、事前の準備が重要です。

この章では、移行作業に入る前に確認・整備しておくべき基本項目を整理します。

ライセンスやテナントの状態・ネットワーク環境・ユーザー情報の整合性・バックアップの取得など、移行の土台となる準備を行うことで、移行後のトラブル防止につながります。

### 移行前の準備概要



#### ■ライセンスとテナントの確認

Exchange Online を利用するためのライセンスがユーザー分確保されているか、テナントの基本設定が完了しているかを確認します。



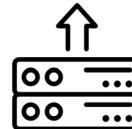
#### ■ネットワークとセキュリティの確認

移行に必要な通信が許可されているか、帯域幅が十分かなど、ネットワーク環境とセキュリティを確認します。



#### ■ユーザーアカウントとメールボックスの整備

移行対象ユーザーのアカウントが Microsoft 365 上に正しく存在しているか、メールボックスが作成済みかを確認します。



#### ■バックアップとリスク対策

移行前に既存のメールデータをバックアップしておくことで、万が一のトラブルに備えます。

## 3.2. ライセンスとテナントの確認

Exchange Online へのメール移行を開始する前に、まず確認すべきなのが「ライセンス」と「テナントの構成状況」です。これらは移行作業の前提条件であり、不備があるとユーザーがメールを利用できない、移行が途中で停止するなどのトラブルにつながる可能性があります。

Exchange Online を利用するために必要なライセンスの種類と、Microsoft 365 テナント側で事前に整備しておくべき内容について整理します。

### ライセンスの確認

Exchange Online を利用できる主なライセンスの種類は以下の通りです。対象ユーザーに対していずれかが準備されていることを確認します。

- **Exchange Online プラン1** … メール機能のみ、メールボックス容量 50 GB
- **Exchange Online プラン2** … メール機能 + DLP 等、メールボックス容量 100 GB
- **Microsoft 365 Business Basic/Standard/Premium** … メール機能 + Office アプリ等、メールボックス容量 50 GB (最大300ユーザー)
- **Microsoft 365 E3/E5** … メール機能 + Office アプリ等 + 高度な管理機能、メールボックス容量 100 GB

ライセンスの内容は[Microsoft公式ページ](#)をご確認ください。

### テナントの確認

移行先となる Microsoft 365 テナントが Exchange Online の利用に適した状態で構成されているか、以下内容を確認します。

確認項目	内容
ドメインの追加・検証	使用するドメイン (例: @xxx.co.jp) が Microsoft 365 に追加され、DNS 検証が完了していることを確認します。Exchange Online でメールを送受信するために必須です。
管理者権限の確認	Exchange 管理センターにアクセスできるグローバル管理者、または Exchange 管理者ロールが割り当てられていることを確認します。移行ジョブの作成や設定変更が必要です。
Exchange Online サービスの有効化	テナント内で Exchange Online がライセンスに含まれており、サービスが利用可能な状態であることを確認します。ユーザーのメールボックスが作成可能な状態であることを確認します。

## 3.3. ネットワークとセキュリティの確認

Exchange Online へのメールデータ移行では、クラウド環境との通信が発生するため、ネットワークの安定性とセキュリティ設定の整合性が、移行作業の成功を左右します。移行前に確認しておくべき「ネットワーク環境」と「セキュリティ設定」について整理します。

### ネットワーク環境の確認

#### ■ 帯域幅の確認

インターネット回線の帯域が十分かを確認します。特に大量データや複数ユーザーの同時移行では、帯域不足による遅延や失敗のリスクがあります。

#### ■ ファイアウォール/プロキシの設定確認

Exchange Online (Microsoft 365) への通信が許可されているかを確認します。

#### ■ 一時的な制限緩和の検討

必要に応じて、移行期間中のみ帯域制限やセキュリティ制限を一時的に緩和することで、安定した移行が可能になります。

### セキュリティ設定の確認

#### ■ MFA・条件付きアクセスの影響確認

多要素認証 (MFA) が有効な管理者アカウントでは、移行ツールや PowerShell 接続がブロックされることがあります。条件付きアクセスの設定によって、移行後のユーザーが Exchange Online にアクセスできないケースもあるため、事前のテストや一時的な除外設定が必要になる場合があります。

#### ■ 外部保存先のセキュリティ確認

PST ファイルなどを一時的に Azure Storage などに保存する場合、保存先のアクセス制御や暗号化設定が適切かを確認しておく必要があります。

### 帯域幅の目安について

帯域幅は、50~150 ユーザー程度の移行で上り (ローカル環境からクラウド(Exchange Online)へデータを送る通信速度) 200Mbps 以上が目安とされています。

メール移行では、ユーザーのメールデータをクラウドにアップロードするため、上り帯域の確保が必要です。

同時に多数のユーザーを移行する場合や、1 ユーザーあたりのメールボックス容量が大きい場合は、帯域を圧迫してしまうため夜間や休日に分散した移行計画を立てることが推奨されます。

## 3.4. ユーザーアカウントとメールボックスの整備

Exchange Onlineへのメールデータ移行を行うには、移行対象となるユーザーがMicrosoft 365環境上に正しく登録されていることが前提となります。アカウントやメールボックスの整備が不十分なまま移行を開始すると、移行ツールが対象ユーザーを認識できず移行作業が失敗する可能性があるため、確認が必要です。

### ユーザーアカウントとメールボックスの確認

ユーザーアカウントとメールボックスについて、以下内容を確認・準備します。

確認項目	内容
ユーザーが Microsoft 365 (Entra ID) に存在しているか	ユーザーが Entra ID 上に作成済みであることを確認します。 オンプレミス環境の場合は Microsoft Entra Connect による同期が正常に行われているかも確認します。
メールアドレス・エイリアスの正確性	ユーザーの UPN (User Principal Name) や SMTP アドレスに重複や誤りがないかを確認します。特に、移行ツールがメールアドレスを識別キーとして使用する場合、誤った設定があると移行対象として認識されない可能性があります。
Exchange Online 上にメールボックスが作成されているか	ユーザーのメールボックスが Exchange Online 上に作成されているかを確認します。 移行方式によってはメールボックスが自動作成されます。自動作成されない場合も、移行後の確認作業の簡略化や移行ツールによるユーザー認識の確実性などの観点から、事前に作成しておくことを推奨します。
利用ポリシー・容量・送受信制限の確認	Exchange Online のメールボックスに適用されるポリシー (保持期間、アーカイブの有無など) や、容量制限、送受信制限 (送信サイズ、添付ファイルサイズなど) を事前に確認し、必要に応じて設定を適用しておきます。 また、過去何年分のメールを移行対象とするかによって移行する総データ量が大きく変わるため、移行対象期間の検討も重要です。 移行作業 (帯域幅の使用量や移行時間、ストレージの消費量など) と、移行後の Exchange Online 環境 (メール保存容量の管理など) に影響するため、計画段階での判断が求められます。

## 3.5. バックアップとリスク対策

メールデータ移行は既存の重要な情報を新しい環境へ引き継ぐ作業であるため、万が一のトラブルに備えて、事前にバックアップを取得し移行中のリスクに対する対策を講じておく必要があります。

### バックアップの取得方法と目的

移行前に既存のメールデータをバックアップしておくことで、移行失敗によるデータ損失・一部データの欠損や破損などのリスクに備えることができます。利用環境に応じたバックアップ取得方法には以下があります。

- Outlook クライアント … PST ファイルとしてエクスポート
- Exchange Server (オンプレミス) … サーバ側でのバックアップ/スナップショット取得
- サードパーティ製メールサービス … ベンダー提供のバックアップ/エクスポート機能

### 移行中のリスク対策

移行作業中には以下のようなリスクが発生する可能性があり、それぞれのリスクに応じた対策が有効です。

リスク	対策方法
データ欠損・重複	信頼性の高い移行ツールを選定する、事前にテスト移行を実施する
添付ファイルの破損	ファイルサイズ制限を確認する、移行ログを取得し原因を分析する
文字化け・構成崩れ	文字コードを事前に確認する、移行後のフォルダ構成を確認する
メールボックスの認識不具合	ユーザーアカウント・メールボックスを事前整備する



## 4. 移行方式の概要と選定ガイド

## 4.1. 移行方式の概要

Exchange Onlineへのメールデータ移行には、複数の方式が存在します。

移行元の環境やユーザー数、運用方針によって最適な移行方式が異なります。

この章では、代表的な移行方式の概要を整理し、利用状況に応じた移行方式の選定ガイドを紹介します。

### 主な移行方式の概要

No.	利用状況	移行方式	特徴
1	Outlook (PSTファイル) を使用している	PST ファイルインポート	Microsoft 365 Import Service を使用。
2	IMAP 対応クライアントを使用している	IMAP 移行	サーバ上のメールを Exchange Online に移行。 ラベルはフォルダに変換されるため注意が必要。
3	オンプレミス Exchange Server を使用している	カットオーバー移行	全ユーザーの一括移行は最大 2000 ユーザー（推奨 150 以下）。
		ステージ移行	段階的に移行。ユーザー数が多い場合に有効。
		ハイブリッド移行	オンプレミスとクラウドを併用。 長期的な共存や段階的移行に対応。
4	Microsoft 以外のメールサービスを使用している	サードパーティ製ツール	BitTitan、Quest、SkyKick などの移行ツールを利用。 特殊環境やクラウド間移行に対応。

## 4.2. 利用状況に応じた移行方式の選定： Outlook（PSTファイル）を使用している場合

### 1. Outlook（PSTファイル）を使用している場合

#### 利用状況の特徴

##### Outlook（PSTファイル）を使用している

- ・ユーザーが個人 PC で Outlook を使用しており、メールデータがローカル環境に保存されている
- ・データ形式は .pst ファイル（Outlookのエクスポート形式）



#### 推奨移行方式

##### PST ファイルインポート

Microsoft が提供する「Microsoft 365 Import Service」を使って、PST ファイルを Exchange Online に取り込む方式です。Azure Storage にアップロードした PST ファイルを、Microsoft 365 管理センターからインポートジョブとして登録・実行します。

#### 移行のイメージ



##### Outlook

ユーザーが日常的に使用している Outlook には、過去のメール、予定表、連絡先などのデータがローカル環境に保存されています。ユーザーはこれらのデータを、Outlook のエクスポート機能を使って PST ファイル形式でエクスポートします。



##### PSTファイル

エクスポートされた PST ファイルを管理者がユーザーごとに整理・収集し、移行対象として準備します。このファイルには、メール本文、添付ファイル、フォルダ構成、既読・未読状態などの情報が含まれています。



##### Azure Storage

Microsoft 365 Import Service を利用するために、管理者が PST ファイルを Azure Storage にアップロードします。このステップでは、Microsoft が提供する SAS URL（セキュアなアップロードリンク）を使って、安全にファイルをクラウド上へ転送します。



##### Exchange Online

Microsoft 365 Import Service の管理画面から、Azure Storage にアップロードされた PST ファイルを対象にインポートジョブを作成・実行します。この処理により、Exchange Online の各ユーザーのメールボックスに PST ファイルの内容が取り込まれ、ユーザーはクラウド上で過去のメールデータを利用できるようになります。

## 4.2. 利用状況に応じた移行方式の選定： Outlook（PSTファイル）を使用している場合

### メリット

#### ■ ユーザー単位の柔軟な対応

・ローカルに保存されたメールデータをユーザーごとに移行できるため、部署や役職ごとの段階的な対応や一部ユーザーのみの移行にも柔軟に対応可能

#### ■ 既存のメール構成を維持

・ Outlook で作成されたフォルダ構成や既読・未読状態が基本的に保持されるため、移行後もユーザーが違和感なく利用できる  
・ 添付ファイルや送受信履歴も含めて移行されるため、業務継続性が高い

#### ■ 公式ツールによる信頼性

・ Microsoft 365 Import Service を利用するため、整合性とセキュリティが確保される  
・ 管理センターからインポートジョブを一括管理できるため、進捗確認やエラー対応がしやすい

### 注意点

#### ■ 事前準備が必要

・ PST ファイルの収集と整理に時間がかかる  
・ ファイル名とユーザーの紐付けを明確にしておかないと、誤ったメールボックスに取り込まれるリスクがある

#### ■ 技術的な設定が必要

・ Azure Storage の準備（SAS URL の取得・アップロード）と、管理センターでのインポートジョブ作成が必要  
・ 大量のファイルを扱う場合、設定作業の負荷が高くなる

### 移行の注意ポイント

1. **正しいユーザーのメールボックスにインポートされているか**：PST ファイルとユーザーの紐付けミスがないかを確認。
2. **PST ファイル自体の破損や不整合がないか**：インポートエラーや一部データの欠損がないか、エラーの有無を確認。
3. **重複インポートが発生していないか**：同じ PST ファイルを複数回インポートしていないかを確認。

# 4.3. 利用状況に応じた移行方式の選定： IMAP 対応クライアントを使用している場合

## 2. IMAP 対応クライアントを使用している場合

### 利用状況の特徴

#### IMAP 対応クライアントを使用している

- ・メールデータがローカルではなく、IMAP 対応のサーバ上に保存されている
- ・クライアントは Thunderbird、Apple Mail、Gmail など
- ・Gmail の場合はユーザーがラベル構造を利用していることが多い



### 推奨移行方式

#### IMAP 移行

Exchange 管理センターから IMAP 移行ジョブを作成し、CSV ファイルでユーザー情報を定義して、サーバ上のメールを Exchange Online に取り込む方式です。

### 移行のイメージ



#### IMAP 対応メールサーバ

ユーザーのメールデータは、IMAP 対応のメールサーバ上に保存されています。

この段階では、移行元のサーバ情報（ホスト名、ポート番号、認証方式など）を把握しておく必要があります。

Gmail の場合は、ラベル構造やアプリパスワードの設定も事前に確認しておきます。



#### CSV ファイルの作成

Exchange 管理センターで IMAP 移行ジョブを作成するために、以下の情報を含む CSV ファイルを準備します。

- ・移行先の Microsoft 365 メールアドレス
- ・移行元の IMAP メールアドレス
- ・IMAP サーバのホスト名とポート番号
- ・IMAP サーバ側の認証情報（アプリパスワード/OAuth 2.0 による認証、または管理者権限を持つアカウントによるアクセス権）

この CSV ファイルが、移行対象ユーザーの一覧と接続情報の定義になります。



#### Exchange 管理センター

管理センターの移行メニューから IMAP 移行ジョブを作成し、CSV ファイルをアップロードします。

ジョブ作成後、IMAP サーバに接続し、各ユーザーのメールデータを取得して Exchange Online に取り込みます。



#### Exchange Online

移行が完了すると、各ユーザーの Exchange Online メールボックスに、IMAP サーバ上のメールが反映されます。

フォルダ構成は基本的に保持されますが、Gmail のラベルはフォルダに変換されるため、構成が変わる場合があります。

## 4.3. 利用状況に応じた移行方式の選定： IMAP 対応クライアントを使用している場合

### メリット

#### ■ サーバ上のメールを一括で移行

・クライアントに依存せず、サーバ上のメールを直接 Exchange Online に移行可能

・複数ユーザーの同時移行にも対応し、大規模な移行に適している

#### ■ 移行対象の選定や進捗管理

・CSV ファイルでユーザー情報を一括管理できるため、移行対象の選定や進捗管理が容易

・管理センターから移行ジョブの状況を確認できる

### 注意点

#### ■ ラベルとフォルダ構成の違いに注意

・Gmail の「ラベル」は Exchange Online の「フォルダ」に変換されるため、複製や構成の変化が発生する可能性がある

・一部のメールが破損やサイズ超過などで移行できない場合がある

#### ■ 既読・未読状態や一部属性の保持に制限

・既読・未読状態や送信済みメール・下書きの保持はツールや移行元サーバによって制限される場合がある

・予定表・連絡先は IMAP 移行の対象外となる

#### ■ 認証情報の管理と収集に注意

・ユーザーごとに認証情報の情報収集や設定が必要で、管理者の作業負担が大きい

・認証情報を CSV ファイルなどで管理するため、漏洩リスクがある

### 移行の注意ポイント

**1. ラベルとフォルダの変換結果**：Gmail などの「ラベル」は Exchange Online の「フォルダ」に変換されるため、移行後にフォルダ構成が意図通りになっているかを確認。

**2. 既読・未読状態や一部属性が保持されているか**：IMAP 移行では既読・未読状態やフラグなどが正しく移行されない場合があるため、状態を確認。

**3. 認証方式とSSO環境への影響**：IMAP サーバ側にサードパーティー製の認証基盤（SSO）が導入されている場合、移行時に一時的に SSO を解除する必要がある可能性がある。セキュリティ強化により、アプリパスワードではなく OAuth 2.0 による認証が求められるケースもあるため、事前に認証方式を確認しておく。

# 4.4. 利用状況に応じた移行方式の選定： オンプレミス Exchange Server を使用している場合

## 3. オンプレミス Exchange Server を使用している場合

### 利用状況の特徴

#### オンプレミス Exchange Server を使用している

- ・社内に Exchange Server (2010/2013/2016/2019など) を構築、運用している
- ・ユーザー数やサーバ構成に応じて、移行方式の選定が必要
- ・Active Directory との連携や、メールフローの制御を行っているケースが多い

### 移行のイメージ



#### オンプレミス Exchange Server

ユーザーのメールデータは、オンプレミスの Exchange Server 上に保存されています。この段階では、移行元の Exchange Server のバージョン、ユーザー数、構成を確認します。



#### Microsoft Entra Connect

オンプレミスの Active Directory と Microsoft 365 (Entra ID) を同期するために、Entra Connect を構成します。これにより、ユーザー情報やメールアドレスの整合性を保ちながら移行が可能になります。



#### 移行方式に応じた構成と実行

**カットオーバー移行**：Exchange 管理センターまたは PowerShell で一括移行を実行  
**ステージ移行**：ユーザーグループごとに段階的に移行  
**ハイブリッド移行**：Hybrid Configuration Wizard を使ってオンプレミスとクラウドの共存構成を構築し、段階的に移行



#### Exchange Online

移行完了後、DNS レコード (MX、Autodiscover など) を変更し、メールフローを Exchange Online に切り替えます。

### 推奨移行方式

#### カットオーバー移行/ステージ移行/ハイブリッド移行

規模	移行方式	特徴
小規模 (~150ユーザー)	カットオーバー移行	一括移行が可能のため短期間で完了する。
中規模 (~2000ユーザー)	ステージ移行	段階的な移行。Exchange 2003/2007向け。
大規模 (2000ユーザー以上)	ハイブリッド移行	オンプレミスとクラウドの共存。Exchange 2010以降向け。

## 4.4. 利用状況に応じた移行方式の選定： オンプレミス Exchange Server を使用している場合

### メリット

#### ■ 公式な手順による高い整合性

- ・ Microsoft が提供する移行方式のため、ユーザー情報やメールフローの整合性が保たれる
- ・ Active Directory との連携を維持できる

#### ■ 環境規模に応じた柔軟な選択が可能

- ・ 小規模から大規模まで、移行方式を使い分けることで無理なく移行できる
- ・ ハイブリッド構成では、長期的な共存運用も可能

#### ■ 移行後の運用が安定しやすい

- ・ Exchange Online の機能をフルに活用できる
- ・ Outlook やモバイル端末との連携がスムーズ

### 注意点

#### ■ 構成が複雑になる場合がある

- ・ ハイブリッド移行では、証明書、ファイアウォール、DNS、Active Directory 同期など複数の要素を調整する必要がある

#### ■ 移行期間中のメールフローに注意

- ・ DNS 切り替えのタイミングによって、一時的にメールが届かない・遅延する可能性がある

#### ■ ユーザー対応が必要

- ・ Outlook の再構成や、移行後の初回ログイン時の案内が必要になる場合がある

### 移行の注意ポイント

1. **Active Directory 同期が正しく行われているか**：Entra Connect によるユーザー情報の同期が正常かを確認。
2. **メールフローが切り替わっているか**：MX レコードや Autodiscover の設定が Exchange Online を指しているかを確認。
3. **Outlook の接続先が変更されているか**：ユーザーの Outlook が Exchange Online に接続されているかを確認。（プロファイル再作成が必要な場合あり）

# 4.5. 利用状況に応じた移行方式の選定： Microsoft 以外のメールサービスを使用している場合

## 4. Microsoft 以外のメールサービスを使用している場合

### 利用状況の特徴

#### Microsoft 以外のメールサービスを使用している

- Microsoft 以外のメールサービス（Google Workspace、Lotus Notes、Zimbra など）を利用している
- 標準の Microsoft 移行方式では対応できない
- クラウド間移行やレガシー環境からの移行が必要になるケースが多い

### 移行のイメージ



#### 移行元環境の確認と準備

Google Workspace や Lotus Notes などの構成を確認し、移行対象のユーザー、メールボックス、データ量を整理します。

使用する移行ツールによっては、Exchange Onlineとの連携にAPIを利用する場合があるため、必要に応じてAPIの有効化やアクセス権限の設定を行います。



#### 移行ツールの導入と設定

選定した移行ツールを導入し、管理画面から移行元（IMAPサーバ）と移行先（Exchange Online）の接続・認証情報を設定します。ユーザーのマッピング（メールアドレスの対応付け）や、移行対象のデータ範囲（メール、予定表、連絡先など）を指定します。



#### 移行ジョブの作成と実行

ツール上で移行ジョブを作成し、スケジュールを設定して実行します。多くのツールでは、進捗状況やエラーをリアルタイムで確認できるダッシュボードが提供されます。



#### Exchange Online

移行が完了すると、Exchange Online 上の各ユーザーのメールボックスに、元環境のメールデータが反映されます。

### 推奨移行方式

#### サードパーティ製ツールの利用

Microsoft 公式の移行方式では対応できない環境に対しては、専用の移行ツールを利用するのが一般的です。代表的なツールには以下があります。

ツール名	対応環境	特徴
BitTitan MigrationWiz	Google Workspace、IMAP	クラウドベース、GUI 操作
Quest Migration Manager	Lotus Notes、Exchange	高度な制御、オンプレミスに強い
SkyKick Migration Suite	Exchange、Google Workspace	自動化、バックアップ機能が充実

## 4.5. 利用状況に応じた移行方式の選定： Microsoft 以外のメールサービスを使用している場合

### メリット

#### ■ 幅広い環境に対応可能

- ・ Microsoft 以外の環境に幅広く対応できる
- ・ クラウド間移行や特殊な構成にも柔軟に対応可能

#### ■ 移行管理機能

- ・ 多くのツールでは移行ログ、エラー管理、再試行機能などが整備されており、トラブル対応がしやすい
- ・ 一部ツールでは、移行前後のバックアップや差分移行にも対応

### 注意点

#### ■ ツールごとの操作性に差がある

- ・ ツールによって対応範囲や設定項目が異なるため、選定時に比較が必要

- ・ サポート体制や日本語対応の有無も確認しておく必要がある

#### ■ 事前検証が重要

- ・ 本番移行前にテスト移行を行い、データの整合性や操作手順を確認しておくことが推奨される

### 移行の注意ポイント

1. **ユーザーのマッピングが正しく行われているか**：移行元と Exchange Online のメールアドレスが正しく対応付けられているかを確認。
2. **移行対象の範囲が意図通りか**：メールだけでなく、予定表や連絡先などが必要に応じて移行されているかを確認。
3. **ツールのログやエラー情報の確認**：ツールが提供する移行ログを確認し、未移行データやエラーの有無を把握する。

## 4.6. 移行方式の比較

ここまで本章では、利用状況に応じて推奨される移行方式や、それぞれの概要について整理しました。このスライドでは、それらの移行方式を「移行対象」「誰が操作するのか」「作業実施の推奨タイミング」「移行できるユーザー数」などの観点から一覧で比較しています。環境や運用方針に適した移行方式を検討する際にご活用ください。

### 主な移行方式の比較

利用状況	移行方式	移行対象	ユーザー操作	管理者操作	作業実施の推奨タイミング	移行可能ユーザー数
Outlook (PSTファイル) を使用	<b>PST ファイルインポート</b>	メールのみ (予定表・連絡先は対象外)	無 (PST ファイルのエクスポートのみ)	有 (Import Service の設定、Azure Storage への PST ファイルアップロード、インポートマップ作成など)	業務時間外 (夜間・休日) インポート中にユーザーがメールを利用できない可能性あり	数千ユーザーまで一括インポート可能 (速度や管理負担に応じて段階的实施を推奨)
IMAP 対応クライアントを使用	<b>IMAP 移行</b>	メールのみ (予定表・連絡先は対象外)	無	有 (メールクライアントのサーバ情報把握、CSV ファイル作成、移行ジョブ作成など)	業務時間内でも実施可能 ただし、同期完了までメールが欠損・重複する可能性があるため注意	~500ユーザー程度
オンプレミス Exchange Server を使用	<b>カットオーバー移行</b>	メール、予定表、連絡先	無	有 (Entra Connect 構成、Power Shell 操作など)	業務時間外 (夜間・休日) 短期間での切り替えにより一時的なサービス停止や遅延のリスクあり	最大2000ユーザー (推奨150以下)
	<b>ステージ移行</b>	メール、予定表、連絡先	無	有 (段階移行のスケジュール調整、Entra Connect 構成、複数バッチの管理など)	業務時間外または影響の少ない時間帯に段階的に実施	~2000ユーザー程度
	<b>ハイブリッド移行</b>	メール、予定表、連絡先	無	有 (Entra Connect 構成、オンプレミスとクラウドの共存構成の構築など)	業務時間内でも実施可能 共存構成のため影響は少ない	制限なし
Microsoft 以外のメールサービスを使用	<b>サードパーティ製ツール</b>	ツール依存	ツール依存 (操作不要なツールが多い)	有 (ツールの選定、設定、検証、ライセンス管理など)	ツール依存 (基本的には業務時間外の実施を推奨)	ツール依存 (数千ユーザー対応可能なツールが多い)



## 5. 移行方式別の代表的なトラブルと初期対応

## 5.1. メールデータ移行の代表的なトラブル内容

メール移行後に発生するトラブルには、移行方式や環境に応じたさまざまな要因があります。

このスライドでは、Exchange Online へのメール移行後に発生しやすいトラブルとその初期対応方法を、移行方式別に整理しています。

問題が発生した際の確認ポイントとしてご活用ください。

移行方式	トラブル内容	初期対応方法	補足/参考情報
PST ファイルインポート	メールが別のユーザーに入っている	ファイル名とユーザーの整合性を見直し、再インポートします。	<a href="#">PST インポート マッピング ファイルを作成する</a>
IMAP 移行	フォルダ構成が崩れている	移行後の構成を確認し、ユーザーに案内します。	<a href="#">IMAP 移行のトラブルシューティング</a>
Exchange Server 移行	Outlook に接続できない	Outlook の再構成を案内し、DNS 設定を確認します。	<a href="#">Outlook 接続の問題を修正する</a>
サードパーティ製ツール	ユーザーのマッピングが誤っている	ツール設定を見直し、正しいマッピングで再実行します。	各ツールの公式ドキュメントを参照

### 補足

#### ■ ファイルの名称に注意

全ての移行方式に共通して、移行作業に使用するファイル（CSVファイルやPSTファイルなど）の名称に特殊文字や全角文字が含まれているとエラーが起きやすいため、半角英数字のみを使用するよう注意が必要です。

#### ■ 業務時間外の移行作業を推奨

トラブルによる業務影響を避けるため、可能であれば業務時間外に移行作業を実施することを推奨します。移行対象のメールボックスが使用中の場合、移行ツールの処理が失敗することもあるため、ユーザーの利用が少ない時間帯に分割して実施することで、安定した移行が可能になります。

## 5.2. PST ファイルインポート方式：メールが別のユーザーに入っている

### エラー概要

インポート後、メールが誤ったユーザーのメールボックスに取り込まれてしまう。

### 原因

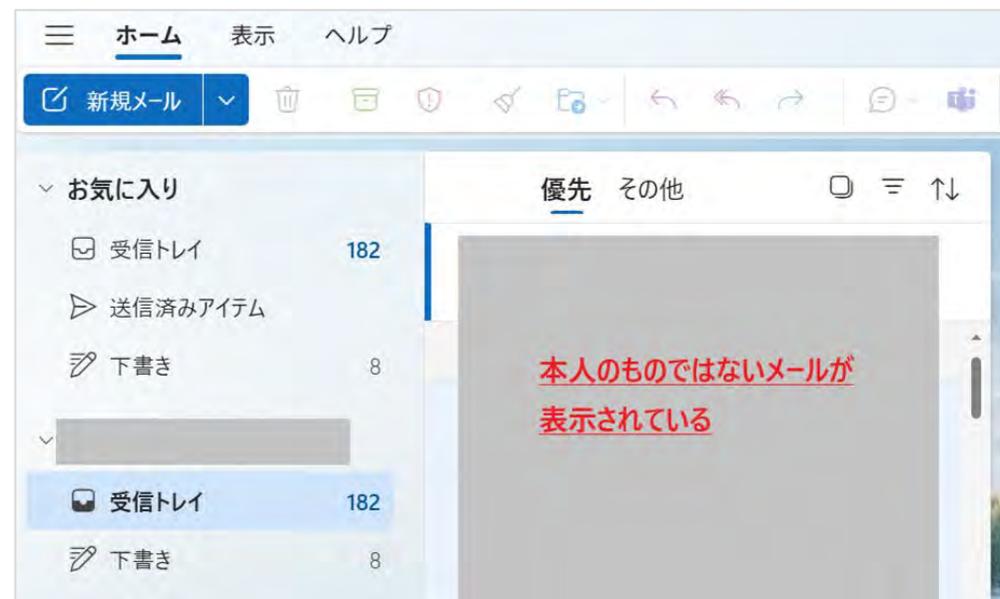
PST ファイルとユーザーの対応関係が誤った状態のままインポートジョブを作成すると、ファイルが別のユーザーに紐付いてしまうことがある。

### 対処法

- ・ PST ファイルの命名ルールを統一し、ユーザー対応表を事前に作成しておく。
- ・ インポートジョブ作成時に、対応表をもとに正しいマッピングを設定する。
- ・ 誤って取り込まれた場合は、該当ユーザーのメールボックスからデータを削除し、正しいユーザーに再インポートする。

### 補足

このトラブルは、複数ユーザー分の PST ファイルを一括で扱う場合に特に起こりやすいため、事前のファイル整理とマッピング確認が重要です。



## 5.3. IMAP 移行方式：フォルダ構成が崩れている

### エラー概要

移行後、メールのフォルダ構成が意図しない形で表示されてしまう。

### 原因

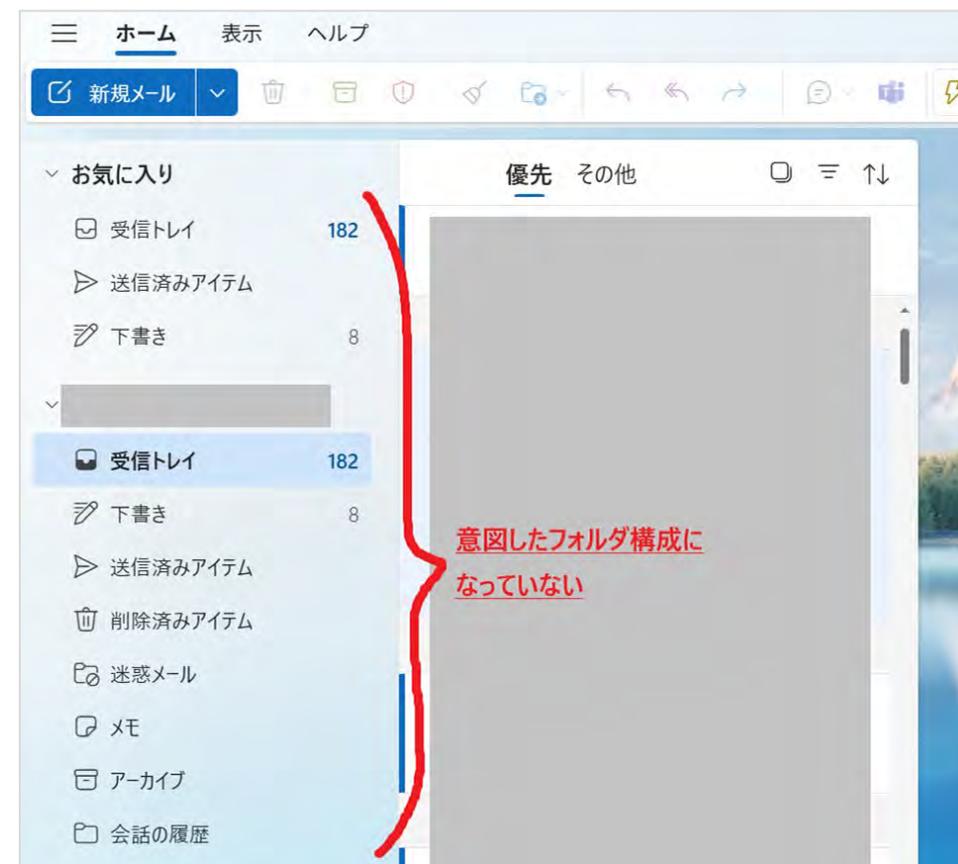
- Gmail などの「ラベル」が Exchange Online の「フォルダ」に変換されるため、構成が変化する。
- ラベルが複数付与されていたメールは、複製されることもある。

### 対処法

- ユーザーにラベルとフォルダの違いを説明し、移行後の構成を案内する。
- 必要に応じて、不要なフォルダを整理する。

### 補足

Gmail 特有のラベル構造は、IMAP 移行時にフォルダとして扱われるため、事前に構成の違いを理解しておくことで混乱を防げます。IMAP 移行では、送信済みメールや下書きが移行されないこともあるため、移行対象の範囲も確認しておくことが重要です。



## 5.4. Exchange Server 移行方式：Outlook が接続できない

### エラー概要

移行後、ユーザーの Outlook が Exchange Online に接続できない。

### 原因

- Outlook のプロファイルが旧環境の情報を保持している。
- DNS 設定（Autodiscover、MX レコード）が未反映。

### 対処法

- Outlook のプロファイルを再構成（新規作成）する。
- DNS 設定を確認し、Exchange Online を指すように修正する。

### 補足

DNS 切り替えのタイミングによって一時的に接続できないことがあるため、移行タイミングは考慮が必要です。

